2020年1月発行

intertek news

Vol.67

ISO関連季刊情報誌（年4回発行）

CONTENTS

01 新年のご挨拶

02 03 特集
審査について
～審査機関・審査員の役割～
- 審査について
- INFORMATION

04 News&Topics
- 世界のISO認証件数が発表
- ISO事業開始から25年
- 地域社会奉仕活動
- Q&A

05 審査の現場から
- お客様紹介
（株式会社小島庭園工務所・樋口造園株式会社・株式会社林造園建設工業）

06 連載よみもの
- 審査員リレーエッセイ
「防災活動と無線」
（審査員　岡本 隆久）
- 環境とISO14001
「気候変動災害に備える」

07 お客様からのお便り
- 「平成30年7月豪雨の被災地より」
（株式会社大塚組）
- 「安心と繁栄をお届けし続ける企業であるために」
（株式会社RMS保険センター）

08 研修コースのご案内
- ちょっといっぷく
- 研修コース案内
- 受講生からのお便り
（日本貨物鉄道株式会社）

インターテック・サーティフィケーション株式会社

発行 大阪事務所 ◇本誌に関するお問い合わせは大阪事務所まで◇

◆バックナンバーは、弊社ホームページでご覧いただけます。

https://ba.intertek-jpn.com/

新年のご挨拶

代表取締役　木村（きむら） 朋聡（ともあき）

年頭にあたりご挨拶を申し上げます。

昨年の災禍をあらためてお見舞いを申し上げます。
復旧復興のために、皆様さぞご奮闘のことと存じます。十分ご自愛くださいませ。
本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

昨年5月、平成から令和へと新たな時代の幕開けとなり、6月に、坂井の後任として、インターテック・サーティフィケーション株式会社の代表取締役に就任いたしました。就任半年となりますが、引き続き皆様と社業の発展に精励いたす所存でございますので、前任者同様のご厚情を賜りますようお願いいたします。

現在の日本と、日本を取り巻く世界状況・市場は、今までにない速さで常に変化しております。昨年は、国内の多くの災害、中米の貿易摩擦、日本と周辺国の関係、揺れる中東情勢、先行き不透明な英国状況など、様々な事象により、日本を含む世界経済環境が変化しており、国内の事業者の方々も、少なからず影響を受けておられるかと思います。そんな目まぐるしい変化を遂げる市場環境において、弊社も皆様の現在・未来の事業者の方々へ付加価値を提供できるように、スピード感をもって、新しい時代に即した進化を遂げていきたいと考えております。

又、昨今、私達はサステイナビリティの実現を目指すことが組織として求められております。自然環境の保全や、低炭素社会の実現、持続可能な調達、コンプライアンス、公平な雇用、ガバナンス、地域との共生、社会問題の解決他、多岐にわたります。今後、会社組織に対しては、益々このような取り組みへの要求が高まってくることが予想されます。そのような要求に企業の皆様が対応しやすいように、弊社でも企業様自身でできる自己診断から認証まで、サステイナビリティに関する様々なサービスを予定しております。ご提供できる環境が整い次第、情報を公開していきます。

一企業の努力だけではカバーしきれない世界的な流れの中にあって、あらゆる業種の事業者様が様々な市況に直面しています。
私たちインターテック・サーティフィケーション社員一同も、「お客様へ付加価値をもたらす審査を提供する」という基本に立ちかえって、地道に、目の前のできることから取り組んで参りたいと存じます。
新しい年が更に良い年になるよう祈念いたしまして、私の新年の挨拶とさせていただきます。
皆様のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

審査について

～審査機関・審査員の役割～

インターテック
品質主任審査員/IRCA認定講師
成毛　秀雄

特集

ISO認証制度の開始から約30年近く経ち、その始まりとなったISO9001の世界での認証数は、2018年末時点で約120万件と現在世界的な拡がりとなっています。今回、弊社の日本でのISO認証事業開始から認証業務に従事し、その変化を間近で見てきた前品質認証部長が、その変遷の中での審査機関、審査員の役割について考察しています。ご参考にしていただければ幸いです。　（編集部）

0 はじめに

ISOマネジメントシステムの認証制度は発足して30年近くになります。弊社の認証顧客の中にも20年以上認証を継続しておられる組織もかなりあります。その間、品質マネジメントシステム規格（当初は品質システムと呼ばれていました）も4回改訂しており、システム要求事項の変化、規格の中でのシステム要素の機能的な配列、システムの構造の明確さ、さらにISO9001/ISO14001:2015年版においては、ビジネス戦略的な要素が強化されて、まさに進化していると感じます。

1 改訂による変化

長く認証されている組織の管理責任者（この用語も今は規格の中では使われていません）の方々はこの変化を如実に実感されているでしょう。私ども審査機関も、規格の改訂ごとに、改訂の意図、趣旨、重要性について検討し、説明会などを開催し顧客をはじめとする利害関係者への通知、審査員教育訓練を行ってきました。認証制度においては、審査機関の活動、審査員の力量、審査の手法は様々な規格やガイドラインで規定されていますが、細部については各機関の方針により微妙な違いはあるでしょう。このようなことも、30年近い間に大きく変化してきています。

2 審査員に必要な知識・力量

審査員にとって必要な知識、力量は大きくわけて二つあると考えられます。一つ目は、マネジメントシステムにかかわる知識、例えばシステムの構造、マネジメントの手法など。二つ目は、審査活動に必要な技量、例えばコミュニケーション力、分析力、適応性、客観性、外交性、プレゼンテーション力などです。前者も後者も長い認証制度の歴史の中で微妙に変動してきています。審査機関は制度の枠組みの中で、この変動をどのように認識し、認証顧客の審査に対するニーズと期待もどう変化してきているのかを察知する必要があります。顧客を取り巻いている外部環境の変化を察知し、それを審査活動の中でどのように反映させ、価値ある有効な審査を行うのかが、審査機関自体の力量といえるのかもしれません。これは、ISO9001/14001マネジメントシステム規格2015年版4.1項の外部・内部の課題としてとらえることもできるでしょう。取り巻く外部環境が変われば、それに応じて内部環境も変える必要が出てくるでしょう。これを審査員の活動、力量の向上にどのように結びつけていくのかが、非常に重要です。審査員の力量は規格、ガイドラインなどで概略は規定されておりますが、審査機関はその機関自身の方針に合わせて審査員を育成していかなければなりません。

3 審査活動とは

審査活動とは、事実を実証する客観的証拠を収集し、規格要求事項との適合性を評価するということで、結果として指摘事項、改善の機会を提示し、審査対象となったシステムに付加価値をつけるということになるでしょう。顧客も外部の人間の目でシステムを見てほしい、そして有益な改善の機会を提示してほしいと考えていることは確かです。審査員はシステム全体の見取り図、プロセスのイメージを頭の中に描き、審査計画に従って事実を収集する活動を行い、限られた時間の中で活動を行っています。

4 おわりに

近頃、ふと思うのですが、審査員が頭の中にシステムの見取り図をイメージとして描き、そこからシステム内のあるプロセスを見るときには、頭の中でプロセスを描き、入力は何か、入力を出力に変換するパラメーターは何か、出力が有効なのかをどのように判断するのか、プロセスの効率は何をもって見るのかを評価しながら審査活動を進めています。このようなことは、審査員の思考の中だけではなく、審査を進める中で審査員のパフォーマンス、言動を通し、審査に立ち会うお客様のシステムに対する思考に影響を与え、審査が終わるときには、お客様の頭の中にシステムの見取り図及び、様々な活動をプロセスとして見ていく手法が明確に形成されてきたら素晴らしいことであると考えます。その組織の管理者の皆様も同様に頭の中にシステムの見取り図とプロセスの手法が同じように形成されることにより、管理者のベクトルは同じ方向に向き、組織のマネジメントシステムの運営に非常によい影響を与えることになるでしょう。

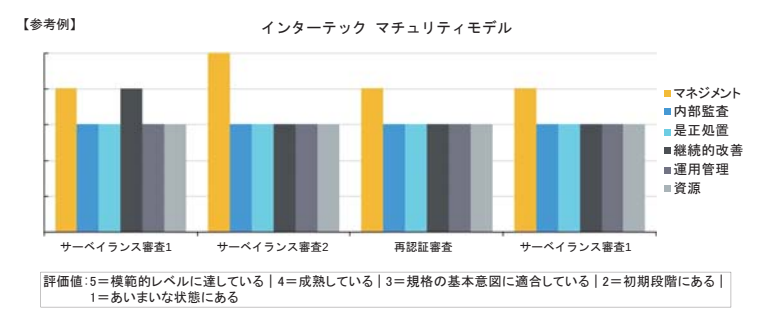
筆者紹介

成毛 秀雄（なるけ ひでお）

プラント、機械、鉄鋼関連の第二者品質監査、第二者検査業務に従事後、ISO認証事業開始に伴い、審査業務へ移行。前QMS認証部長、IRCA認定コース講師。現在も審査員/講師として活動中。東京都多摩市在住。

INFORMATION

弊社では、社内電子化の一環としまして、審査報告書の電子管理、メールでの報告書提出システムの導入を始めています。この電子版報告書では、『マチュリティモデル』として、審査員が評価した主要プロセス6項目の成熟度の過去3年間の推移が表示されており、運用の指標にご参照いただければと思っております。



評価内容は、全てのマネジメントシステムに当てはまるよう一般的な内容になっているため、解釈の一貫性と審査結果の標準化を世界的に考慮したもので、各点数は、審査チームの評価を元にしたベンチマーキングを目的としたものになります。例えば、例示されているグラフの「マネジメント」の評価4の場合、「経営者のコミットメント、顧客及び/あるいは利害関係者の満足、方針及び目標についての知識・認識、責任・権限は明確であること、マネジメントレビューが実施され、大多数の要員から支持されていること。記録も整備されており、改善と学習が進んでいること」などが評価された結果として表示されています。

電子システムの導入につきましては、順次進めておりますので、よろしくお願いいたします。

世界のISO認証件数が発表

ISO(国際標準化機構)中央事務局は、世界のISOマネジメントシステム規格の認証件数について集計・調査した"ISO Survey 2018"を公表しました。これは、2018年末時点でのISO9001(品質)、ISO14001(環境)、ISO27001(情報セキュリティ)、ISO22000(食品産業)、ISO45001(労働安全衛生)、ISO13485(医療産業)、ISO50001(エネルギー)、ISO22301(事業継続)、ISO20000-1(ITサービス)、ISO28000(サプライチェーンセキュリティ)、ISO39001(道路交通安全)、ISO37001(贈収賄防止)の認証件数について集計されたもので、今回ISO45001とISO37001の2規格が追加され調査対象は12規格となりました。

今回より従来の認証数に加え、認証サイト数も集計されるようになり、規格別認証サイト数では、ISO9001は1,180,965件で、国別では日本は4位の68,508件でした。ISO14001の認証サイト件数は447,547件で、日本は2位となっています。その他、ISO27001は12,145件で日本は1位、ISO22000は1,710件で4位。また、ISO45001は191件で、OHSAS18001からの移行途中のため数字が伸びていないものと思われます。この調査の詳細についてはISOのホームページでご覧いただけます。(https://www.iso.org/the-iso-survey.html)

ISO事業開始から25年

弊社が日本でのISO認証業務を開始してから昨年11月で25年となりました。また、昨年は公益財団法人日本適合性認定協会(JAB)より公表されました2019年3月末時点の認証組織件数において、ISO9001品質マネジメントシステムの認証組織件数で弊社が1位となりました。これもひとえに1万社を超えるお客様をはじめ、規格の普及と発展に貢献していただいています多くのご関係者の方々のおかげに他なりません。これまでのご支援・ご高配に対し、社員一同心より感謝申し上げます。

これからまた次の10年、20年と、皆様のマネジメントシステムの理想的なパートナーとして皆様と伴に歩んでまいりたいと思っております。引き続きよろしくお願い申し上げます。

地域社会奉仕活動

東京都では、ボランティア活動に関して継続的、先進的な取組みを行っている企業・団体等に「共助社会づくりを進めるための社会貢献大賞」を贈呈しており、中央区環境保全ネットワーク様が、今年度の「特別賞」を受賞されました。子供や地域住民を対象に、環境問題への理解を深め、環境に配慮した行動を身につける体験型環境学習イベント「子どもとためす環境まつり」の継続的な実施などの取組みが評価されたもので、弊社では地域社会貢献活動の一環として、同じ中央区にある東京事務所のスタッフを中心にこのイベントのお手伝いを過去10年間にわたりさせていただいております。

今回の受賞にちなみ、同ネットワーク様では、支援・協力者へ感謝状を贈られており、今年16回目の開催が無事に終了したタイミングで弊社も感謝状をいただきました。今後も引き続きこのような地域社会に貢献できる活動を継続的に行ってまいります。

Q&A

お客様からいただきましたご質問についてご紹介いたします。

Question

ISO9001、ISO14001、OHSAS18001の3規格を認証取得しています。近年中にOHSAS18001がISO45001に変わると聞きました。今年は維持(サーベイランス)審査なので、来年の再認証審査時までに、ISO45001への取り組みをしたいと思っています。何か注意点はありますでしょうか？

Answer

2018年3月12日に、ISO45001:2018が発行され、OHSAS18001はISO45001へ切り替わります。移行期限(発行後3年以内)までに、ISO45001:2018への認証移行を完了いただく必要があります。移行審査は、通常、定期審査(サーベイランス審査・再認証審査)のタイミングに合わせて同時に実施します。ISO45001への移行が完了しましたら、従来の有効期限が引き継がれます。

現在、弊社で認証いただいているお客様の内、約4割がまだ認証移行されていません。弊社では、スムーズな移行の手続きのため、2020年9月頃までに移行審査を受審されることをお勧めしており、ご質問いただいた来年の再認証審査では間に合いません。弊社がお勧めしている移行期限までに定期審査がすでに終了しているなどタイミングが合わない場合などは、移行審査のみを単独で受審いただく必要がありますが、審査工数も余計に掛かりますので、計画的に進めていただいて、定期審査の中で移行されることをお勧めします。

また、貴社は、3規格を認証取得されているとのことですので、ISO9001、ISO14001の2015年版への移行で、すでにISO規格の共通仕様を定めた附属書SLが適用されていると思います。ISO45001:2018は、ISO9001・ISO14001:2015と同様に附属書SLに従ったものとなりますので、認証移行にも、それほど抵抗感なく、取り組んでいただけると思います。

弊社が推奨する受審期限直前(2020年9月頃)は、審査が混み合うことが予想されるため、余裕を持って受審いただくためにも、お早めのご準備をお願いいたします。弊社ホームページにISO45001:2018移行審査に関する特設ページを設けておりますので、ご参照ください。(https://ba.intertek-jpn.com/shift-iso45001/)

受審時期のご相談も含め、ご不明な点等ございましたら、弊社各地区営業担当、営業部、また東京事務所OHSAS認証部までお気軽にお問い合わせください。

※移行期限を過ぎますと、OHSAS18001は、認証失効しますので、ご注意ください。

お客様紹介

株式会社小島庭園工務所 様
樋口造園株式会社 様
株式会社林造園建設工業 様

（ISO14001：2015認証登録）

〔取材者〕 審査員 美濃 英雄
Hideo Mino

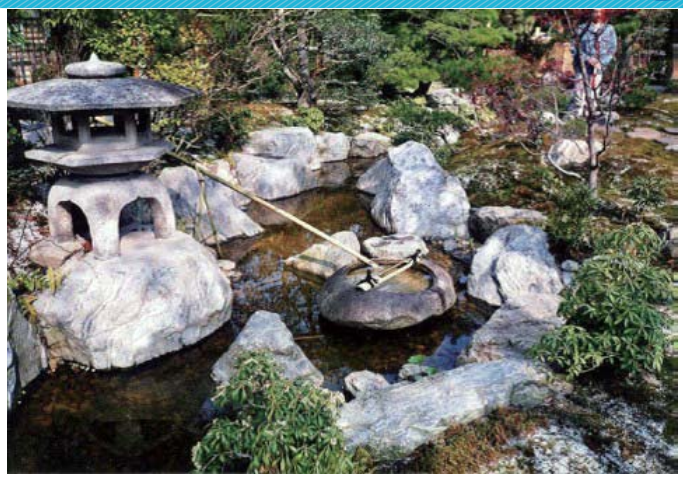
京都市内の同3社様は、ジョイントプロジェクトとして、2003年から同じシステムを運用され、トップマネジメントは、株式会社小島庭園工務所の社長様が担当されています。適用範囲は、「植栽工事、公園整備工事、屋上緑化工事、広場工事、園路工事等に係る設計、施工及び施工管理並びに維持管理」です。

東山慈照寺：通称銀閣寺（京都市）

樋口造園株式会社 （1864年創業）

◇住所：京都府京都市上京区
◇施工実績：二条城、銀閣寺、北野天満宮（京都）など

審査では、以下確認されました。
社長様は、「庭園工事も浮き沈みがあり、最近では電子入札化や、価格競争も激化している中で、従来の顧客を大切にしている。従来から親交のある3社で競争と共存の関係を強化しつつ、造園工事のレベルアップを図っている」と、述べられています。
環境方針では、「剪定枝葉などの廃棄物をバーク堆肥等の再生資源として自社で活用することで廃棄物を削減し、本業の造園及び庭園管理を通じ京都及び地域の景観の向上に努める。緑地の維持にあたっては、環境にやさしい肥料を使用する」など、取り組まれています。



鶴岡八幡宮 齋館（鎌倉市）流れつくばい（手を清めるための手水鉢）

株式会社小島庭園工務所 （1818年創業）

◇住所：京都府京都市西京区
◇施工実績：大阪万博日本庭園（大阪）、足立美術館（島根）、鶴岡八幡宮 齋館（神奈川）など

原則環境会議は毎月3社合同で、内部監査も3社で行われています。マネジメントレビューには3社の担当者様が参加され、「伐採木のチップ化、堆肥化、燃料化を行っており、外部にもアピールすること」などの指示が、アウトプットされています。
近年の台風被害の際、昼夜を分かたず、迅速的確な倒木撤去などにより、2次災害防止、緊急対応が認められ、京都市より3社様宛に、緊急工事への防災功績者として感謝状が授与されています。

善峯寺（京都市）遊龍の松（全長40m、樹高2.3m、樹齢600年以上、天然記念物）

株式会社林造園建設工業 （1963年創業）

◇住所：京都府京都市西京区
◇施工実績：嵐山公園、修学院離宮、伏見稲荷大社、善峯寺（京都）など

https://www.kojimateien.co.jp/ https://higuti.co.jp/ http://hayashizouen.co.jp/

審査員リレーエッセイ ⑥⑤

From
神奈川県相模原市
岡本 隆久
（おかもと たかひさ）

Profile
専門分野：ISO9001－食品飲料
経　　歴：財団法人日本食品油脂検査協会、油脂会社の技術・衛生管理指導、インターテック審査員（現職）

審査員からのエッセイをお楽しみください。

「防災活動と無線」

防災訓練にて

私の住んでいる相模原市中央区は岩盤が堅く、標高も比較的高い（100m）地域のため、大地震が来ても安心という考えがあり、周りの地域と比較して防災活動は遅れていました。そこで、私たちの地区では専任の独立防災隊を立ち上げ、現在では13隊が地域会員と共に防災訓練、避難所開設訓練等を実施し、自助、共助の考えのもと活動しています。その中で大事なことは情報伝達で、私の趣味である無線を取り入れ、簡易無線を各防災隊に導入して地域－公民館－市役所へのスムーズな情報伝達を達成しています。

連載「環境とISO14001」⑥⑤

「気候変動災害に備える」

環境主任審査員　郷古 宣昭 Nobuaki Goko

「海洋プラスチック汚染」の予定を変更し、緊急性の高い話題を提供します。

1. 気温上昇1.0℃と1.5℃

2018年12月、COP24の直前に発表されたIPCC(気候変動に関する政府間パネル)1.5℃特別報告では、産業革命前と比べた気温上昇を現状の1.0℃から2.0℃に上昇した時の影響は相当の違いがあるが、1.5℃への上昇にとどめた場合でも現状に比較してかなり悪い影響が予想されることが報告されました。

その後、2019年8月と9月にも特別報告が公表され、このままでは2040年、早ければ2030年にも1.5℃に上昇するとの予測が報告されています。あと10年でさらに0.5℃ということであり、まさに気候危機に突入することになります。

※65号「COP24/IPCC1.5特別報告」もご参照ください。

2. 気温上昇1℃でも被害は激甚

1.5℃特別報告は様々な事象が1℃上昇でも危険域に入っていることを示しています。私たちは2018年西日本豪雨、台風21号による関西空港の水没、2019年の九州豪雨、台風15号、台風19号等各地の甚大な被害を目の当たりにしてきました。

海水が熱量の90％以上を吸収し、その蓄熱量は1993年に比べて約2倍に達していると報告されています。これが海洋で大量の水蒸気を発生させ、巨大台風となって日本を襲い、豪雨をもたらしています。温暖化の影響は台風や豪雨にとどまりません。夏場の暑熱は常態化し、世界各地で熱中症や熱波による死者を出し、山林火災を頻発させました。

2019年9月に発表されたIPCC特別報告ではグリーンランド、南極大陸の氷の融解が急速に進んで、それが海面上昇の原因になっていること、現在のペースで温室効果ガスの排出が続くと、今世紀末には海面上昇は1.1mに達し、7億人が住む沿岸に影響が出るとしています。また、グリーンランド、南極の氷床の融解は既存の海流の流路を変え、海の生態系を乱し、このままでは今世紀末に漁獲量は24％減少することも予想しています。

報告はまた、シベリア、カナダの永久凍土の融解でこれまで閉じ込められていたメタンや二酸化炭素が大量に放出して、これが温暖化をさらに進めていると指摘しています。こうなると、もはや制御不能のフィードバック連鎖のスイッチが入る可能性を示唆しているように思います。報告は「社会のあらゆる面の改革が必要だ」と指摘しています。

3. ISO14001で対応する

このような非常事態とも言える状況に対して、「気候非常事態」を宣言することにより、気候変動への政策立案や実践を優先的に行う運動が急速に拡大しています。2019年12月3日時点で26カ国の1,216自治体が登録していて、日本では長崎県壱岐市と神奈川県鎌倉市が登録しています。「緩和」と「適応」の両方に取り組むことを特徴にしています。

ISO14001:2015では「環境状態」を定義し、組織が環境とその変化が組織に与える影響を認識し、管理することを求めています。例えば、近くの河川が氾濫して商品や原材料が水没する、供給・配送チェーンが止まる等のリスクを評価し、対応策として原材料保管庫床面を水没しない高さ迄上げる、供給者や配送拠点を多重化する等が考えられます。

気候変動が危険ゾーンに突入している現在、これまで異常視してきた事象は起こりうるリスクと認識すること、気候変動で起こりうるあらゆる事象と組織の状況を分析して、従業員とその家族の安全と事業継続の観点からリスクを評価し、対応策を整えることが重要です。

次回は、今号で予定していました「海洋プラスチック汚染」第2弾について解説します。なお、今号同様、状況により予定を変更することもございますので、ご留意ください。

No.01 Letter

平成30年7月豪雨の被災地より

株式会社大塚組（ISO9001:2015認証登録）

専務取締役　大塚 宏平

弊社は「全社一体となって、常に安全と品質を追求し、地域社会に必要とされる企業を目指す」を経営理念に掲げる地元密着型の建設会社です。

平成30年7月7日早朝、数日前から降り続いた雨がさらに激しさを増しました。弊社所在地の愛媛県西予市野村地区上流、約3kmに位置する国交省野村ダムも想定外の豪雨により、ついに洪水調整能力の限界を超え、下流域が安全とされる放流量基準の約6倍もの水を放流せざるを得なくなりました。街は瞬く間に濁流にのみ込まれ、尊い人命や財産が失われました。発災当初、私ども建設業者の使命は寸断された道路を復旧し、一刻も早く孤立地域を解消することでした。停電と断水が続く中、猛暑と闘いながら懸命に復旧作業をしたことが昨日のことのように思い出されます。

この豪雨災害を通じて、自然の強大な力の前での人の無力さ、そこから立ち上がっていく人の逞しさ、そして援助の手を差し伸べてくれる人の優しさを痛感しました。

濁流に飲み込まれた野村町

復興はまだまだ道半ばであります。弊社も微力ながら地域の復旧・復興のために尽力していきたいと考えております。

陥没道路現場

▶ http://www.ootukagumi.co.jp/

No.02 Letter

安心と繁栄をお届けし続ける企業であるために

株式会社RMS保険センター（ISO9001:2015、ISO39001:2012、ISO45001:2018認証登録）

営業部主任　永井 康博

社内風景（富山市）

企業を取り巻く環境が激変する今日、さまざまなリスクへの対応が必要となります。弊社では、リスクを軽減する保険の仕組みづくりに取り組んでおります。その仕組みによるサービスを目に見える形でお伝えするために、「ISO9001」「ISO39001」、そして「OHSAS18001」を日本の保険代理店で初めて認証を取得（その後「ISO45001」へ移行）。また2017年からは、6,800の企業に対して安全運転管理者の研修を受託するなど、弊社独自のサービスを展開しております。交通事故や労働災害に配慮した企業活動は働き方改革にもつながり、適正な掛け金で手厚い保障にご加入いただけるため、現在までに28団体のお客様とお取引をさせていただいております。

2018年5月には、優良企業の証である銀行保証付無担保私募債が発行されました。現在の従業員数は28名ですが、今後は100名体制への増員とネットワークの拡大を目指します。

明日もお客様に、安心と繁栄をお届けし続ける企業であるために。

OHSAS18001*認証登録証明書授与式にて
左）同社代表取締役 岡崎 稔 氏
＊2019年5月 ISO45001:2018へ移行

▶ https://rmsnet.jp/

ちょっといっぷく

今年の干支は、庚子（かのえね）。「庚」は、草木としての成長が止まり、新たな形に変化しようとする状態を表し、「子」は種子の中に新しい生命がきざし始める状態を表すことから、次の段階に向けた準備期間、未来への拡がりを意味しています。

今年は、56年ぶりの東京開催を控え、オリンピックムードも盛り上がっています。東京でのオリンピック開催は1964年に次いで今回2回目となりますが、1940年（昭和15年）にも幻の東京オリンピックと呼ばれた開催計画があったことをご存知でしょうか？

関東大震災からの復興を世界にアピールする場として、また皇紀2600年（神武天皇の即位から2600年）の記念事業として、東京市議会での1940年の東京五輪の招致が決まり、その招致活動の要請を受けた外務省による積極的な活動もあり、1936年の国際オリンピック委員会（IOC）にて対立候補のヘルシンキを破って東京開催が決定しました。しかし、その後の日中戦争の激化や軍部の反対などから、最終的に辞退することになり、幻のオリンピックとなりました。そして次点のヘルシンキがその代替地となりましたが、こちらも第二次世界大戦の勃発により開催中止となっています。その後、1960年に日本は再び東京を開催地として立候補し、アジア初開催として1964年に東京開催が実現しました。

ちなみに、当時は冬季五輪も夏季開催国に優先権があったため、東京開催が決定した翌年のIOCで札幌開催も決定し、1940年は夏季・冬季五輪同時開催の予定でしたが、こちらも東京と合わせて辞退したことで幻のオリンピックとなりました。札幌開催は、その後、1972年に日本初、アジア初の冬季オリンピックとして実現しています。今回の東京五輪では、マラソン・競歩が札幌で行われることになっており、幻のオリンピックの地が繋がるような感じがします。これからますます東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けての機運が高まっていくと思いますが、各国代表選手たちの熱い戦いに今から楽しみですね。

今年は子年、新しい十二支のサイクルがスタートする年になります。東京オリンピックでは、「スポーツには世界と未来を変える力がある」をビジョンに掲げ、国連が掲げるSDGs（持続可能な開発目標）に沿った大会運営を目指し、新たな試みも取り入れて取り組んでいるそうです。皆様方にとりましても、健やかで新たなチャレンジや可能性が溢れる年になりますよう心よりお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

（参照：国立公文書館アジア歴史資料センター、NHK、外務省外交資料HP）

Information on training courses

研修コースのご案内

開催日程・開催地等、研修に関する詳細は弊社ホームページにてご確認ください。（https://ba.intertek-jpn.com/study/）

審査員養成コース

審査員養成コースは、審査員を目指される方だけでなく、最近では企業様から、品質管理体制の改善や、内部監査員のさらなるスキルアップを目指してご参加いただくことが増えております。業務改善や力量向上を目指している皆様のご参加をお待ちしております。

- ISO9001（5日間）/ISO14001（3日間）/ISO45001（3日間）
  ※ISO14001/45001の3日間コースは受講要件がございます。詳細は弊社ホームページにてご確認ください。

開催地 東京（弊社東京事務所）

日　程
- ISO9001・・・3/9（月）～13（金）
- ISO14001・・・5/23（土）～25（月）
- ISO45001・・・6/20（土）～22（月）

JGAP審査員研修（青果物・穀物）

開催地 東京（弊社東京事務所）

日　程 4/21（火）～23（木）、6/16（火）～18（木）

ISO14001を活用したSDGsセミナー

SDGs各目標に起因するリスクと機会、ISO14001を活用した対応について解説します。

開催地 東京（弊社東京事務所）

日　程 2/12（水）

＊弊社ホームページよりお申込みいただけます。FaxまたはEmailでのお申込みの場合は、ホームページより申込書をダウンロードいただき、必要事項をご記入の上、ご送付ください。

受講生からのお便り

ISO14001：2015 内部監査員養成コースを受講して

環境内部監査員養成コース（2019年6月大阪会場）受講

日本貨物鉄道株式会社
吹田貨物ターミナル駅　村上 崇

当社は、2012年に、「吹田貨物ターミナル駅及び吹田機関区構内の信号取扱業務及び入換操車業務；コンテナの発送業務、積付検査業務及び積卸し業務」で、ISO14001を認証取得しています。

当研修の受講を審査員に相談したところ、「長年運用されているから、受講の必要は無いのでは」と、聞いていました。但し、認証取得当初から、担当者が何回か変更しており、過去の担当者も当コースを受講していたこともあって、今回受講することにしました。自分自身、前担当者から引き継ぎを受け、過去の文書や記録をもとに、維持審査を受けていました。今回のコース参加で、ISO14001規格2015年版の意図や、内部監査員に求められる視点などを学ぶことができ、良かったと思います。

当コースの参加経験を生かして、次回からの内部監査が、いっそう有意義になるよう、取り組めると思います。

インターテック・サーティフィケーション株式会社　https://ba.intertek-jpn.com/

東京事務所　〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-4-2 日本橋ノーススクエア　TEL：(03)3669-7408 FAX：(03)3669-7410 E-mail：info.ba-japan@intertek.com

大阪事務所　〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原3-5-24 新大阪第一生命ビル5F　TEL：(06)6150-0571 FAX：(06)6150-0575 E-mail：info.ba-osaka@intertek.com